

平成24年度病害虫発生予報第2号

長崎県病害虫防除所長

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	いもち病(葉いもち) イネミズゾウムシ	並 並	並 並
いちご (育苗床)	うどんこ病 炭疽病(<i>G.cingulata</i>) ハダニ類	やや少 並 やや少	やや少 並 並
アスパラガス	アザミウマ類	並	並
かんきつ	そうか病 かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ ヤノネカイガラムシ	並 並 - 並 並 並	並 並 並 並 並 並
びわ	がんしゅ病 灰斑病 ナシマルカイガラムシ (防除情報第4号) ナシヒメシンクイ	やや多 少 並 並	やや多 少 並 並
なし	黒星病 アブラムシ類	やや多 やや少	やや多 やや少
ぶどう	黒とう病 チャノキイロアザミウマ	並 並	並 並
果樹共通	カメムシ類(防除情報第5号)	並	並
茶	炭疽病 チャノコカクモンハマキ チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ クワシロカイガラムシ カンザワハダニ	並 並 並 やや多 やや多 やや多 やや多	並 並 並 やや多 やや多 やや多 やや多

【発生予報】

本文の()内は平年値

早期水稲

1. いもち病(葉いもち)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 5月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

2. イネミズゾウムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査（39筆）の結果、食害株率は7.4%（3.6%）、発生圃場率は41.0%（34.9%）、1株当たり寄生成虫数は0.0頭（0.0頭）であった。

イ 5月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、食害株率は36.0%（38.3%）、1株当たり寄生成虫数は0.0頭（0.0頭）であった。

いちご(育苗床)

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査（31筆）の結果、発病株率は1.8%（3.2%）、発生圃場率は9.7%（19.4%）であった。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査（31筆）の結果、発生を認めなかった（発生圃場率0.0%、発病株率0.0%）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 育苗床が多湿にならないように、連続した長時間のかん水はしない。密植を避け、排水対策を確実にを行う。また、除草を徹底するなど、環境整備に努める。

イ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗は育苗せずに処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。

ウ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。

3. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査（31筆）の結果、寄生株率は0.3%（2.3%）、発生圃場率は12.9%（18.5%）であった。

イ 向こう1ヶ月の気温は、平年より高い見込みである。

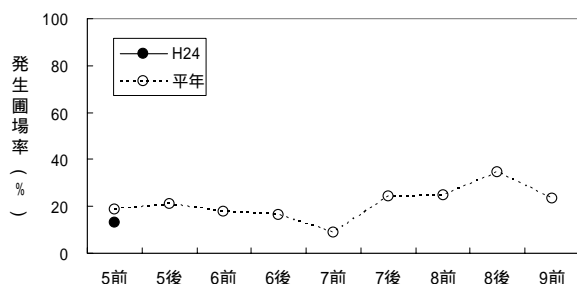


図 ハダニ類 発生圃場率の推移(巡回調査)

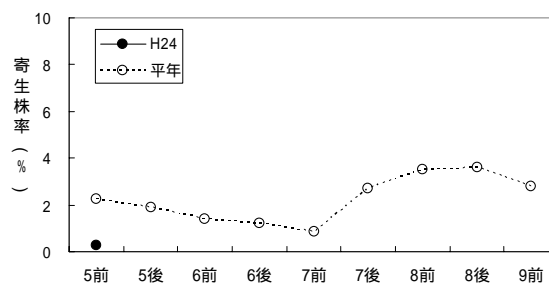


図 ハダニ類 寄生株率の推移(巡回調査)

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容
発生程度 並

(2) 予報の根拠
5月上旬の巡回調査(9筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は5.7頭(過去5カ年平均5.4頭)、発生圃場率は77.8%(過去5カ年平均79.2%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項
5～6月はアザミウマ類が増加しやすい時期であるので、発生に注意し、早期防除に努める。

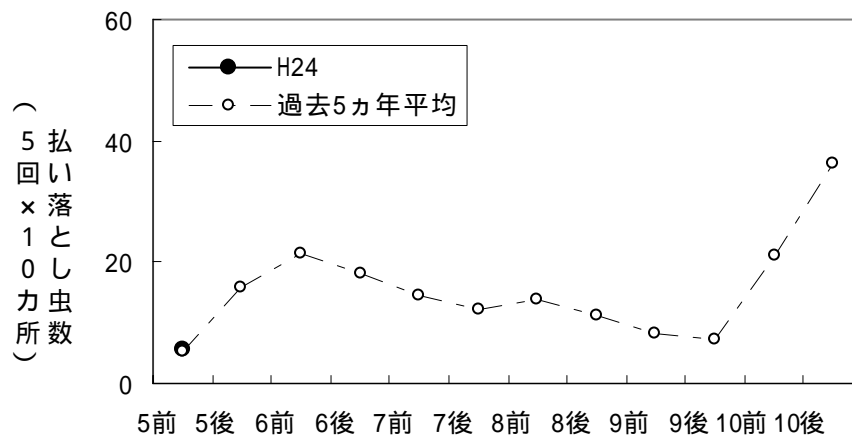


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移(巡回調査)
払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

かんきつ

1. そうか病

(1) 予報内容
発生程度 並

(2) 予報の根拠
5月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発病葉率は0.2%(0.0%)、発生圃場率は2.8%(2.9%)であった。

2. かいよう病

(1) 予報内容
発生程度 並

(2) 予報の根拠
5月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

3. 黒点病

(1) 予報内容
発生程度 並

(2) 予報の根拠
向こう1ヶ月の降水量は、平年並の見込みである。

4. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は1.2%(1.5%)、発生圃場率は25.0%(25.1%)であった。

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年並で推移している(図)。

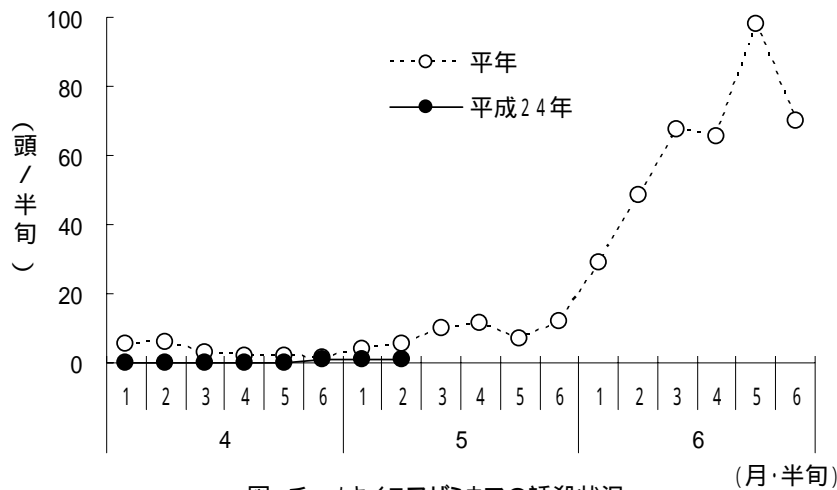


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況
(諫早市小船越町:黄色粘着トラップ)

なお、第2世代成虫の発生時期は下表のとおりと予測される。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ
第2世代成虫の予測発生ピーク日

地点	長崎	佐世保	大瀬戸	口之津	平戸	長崎 (平年)
第2世代	6/8	6/9	6/15	6/8	6/19	6/9
" (前年)	6/13	6/14	6/23	6/14	6/25	-
第3世代	6/30	7/1	7/8	6/30	7/12	7/1
" (前年)	7/4	7/5	7/13	7/4	7/15	-
標高(m)	27	4	43	10	58	27

注1: 気温データは各地域のアメダス観測値を使用した。

注2: 平成24年5月10日時点で予測し、5月11日以降のデータは平年値を使用した。

注3: 同一地区内でも、山間部では予測発生ピーク日が異なる場合があるので注意する。また、降雨等により予測日が変動する場合がある。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 表の予測発生ピーク日5日前から発生ピーク日に薬剤散布をすると防除効果が高い。

イ 発生が多い圃場では1果当たりの寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

ウ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

6. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 平成23年11月に実施した温州みかん果実の病害虫発生状況調査の結果、被害果率は0.3% (0.4%)であった。

イ 各地区における初発日と防除適期は、下表のとおりと予測される。

表 ヤノネカイガラムシの初発日と防除適期予測日

地点	長崎	大村	島原	口之津	大瀬戸	佐世保	松浦	平戸	福江	石田	厳原	長崎 (平年値)
初発生予測日	5/9	5/10	5/9	5/8	5/10	5/9	5/11	5/11	5/7	5/11	5/12	5/8
前年予測日	5/12	5/14	5/13	5/12	5/13	5/13	5/15	5/15	5/12	5/15	5/15	-
IGR剤防除日	6/3	6/4	6/3	6/2	6/4	6/3	6/5	6/5	6/1	6/5	6/6	6/2
有機リン剤防除日	6/18	6/19	6/18	6/17	6/19	6/18	6/20	6/20	6/16	6/20	6/21	6/17
標高(m)	27	3	9	10	43	4	5	58	25	26	4	27

注1：方法は「果樹防除適期判定システム(ヤノネカイガラムシ)」を利用した。

注2：気温データは各地域のアメダス観測値を使用し、防除適期はIGR剤で初発日の25日後、有機リン剤で40日後とした。

注3：同一地区内でも、山間部では防除適期が遅れることがあるので注意する。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は1.8% (0.9%)、発生圃場率は70.0% (40.0%)であった。

2. 灰斑病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(10筆)の結果、春葉での発生を認めなかった(発病枝葉率2.4%、発生圃場率48.8%)。

3. ナシマルカイガラムシ

平成24年5月15日付け病害虫発生予察防除情報第4号による。

4. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(寄生枝葉率0.0%、発生圃場率1.3%)。

イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、平年並で推移している(図)。

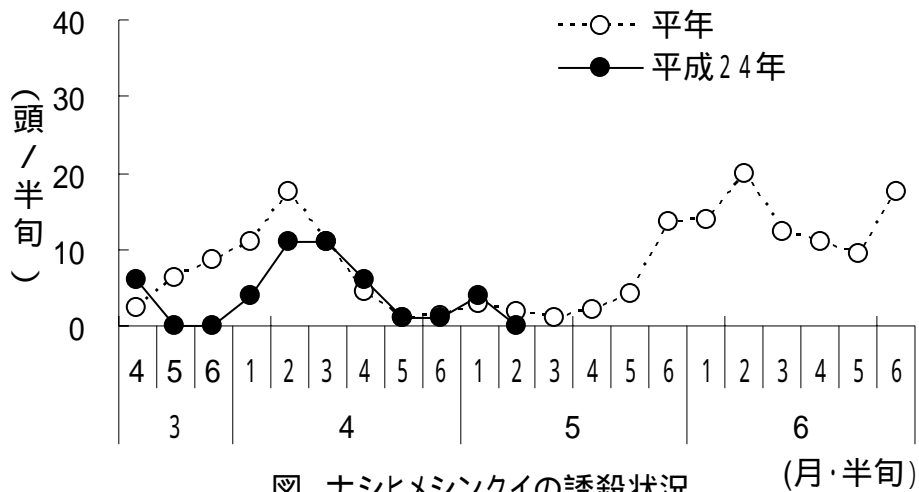


図 ナシメシンクイの誘殺状況
(諫早市小船越町:フェロモントラップ)

なし

1. 黒星病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.9%(0.3%)、発生圃場率は25.0%(27.7%)、発病果率は0.6%(0.1%)、発生圃場率は25.0%(14.4%)で、一部多発圃場が見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

ア スピードスプレーヤーで散布する場合は全列走行とし、圃の周囲等で薬液が到達しにくい場所は手散布を併用する。

イ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤は連用しない。

2. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生新梢率は0.2%(0.5%)、発生圃場率は16.7%(19.5%)であった。

ぶどう

1. 黒とう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.2%(0.0%)、発生圃場率は8.3%(8.3%)であった。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(被害花房を認めない)。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年並で推移している。

果樹共通

1. カメムシ類

平成24年5月15日付け病害虫発生予察防除情報第5号による。

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉数0.0枚、発生圃場率2.5%)。

2. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡当たり平均巻葉数0.0枚、発生圃場率3.1%)。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は、5月2~3半旬にピークが見られ、平年並で推移している(図)。

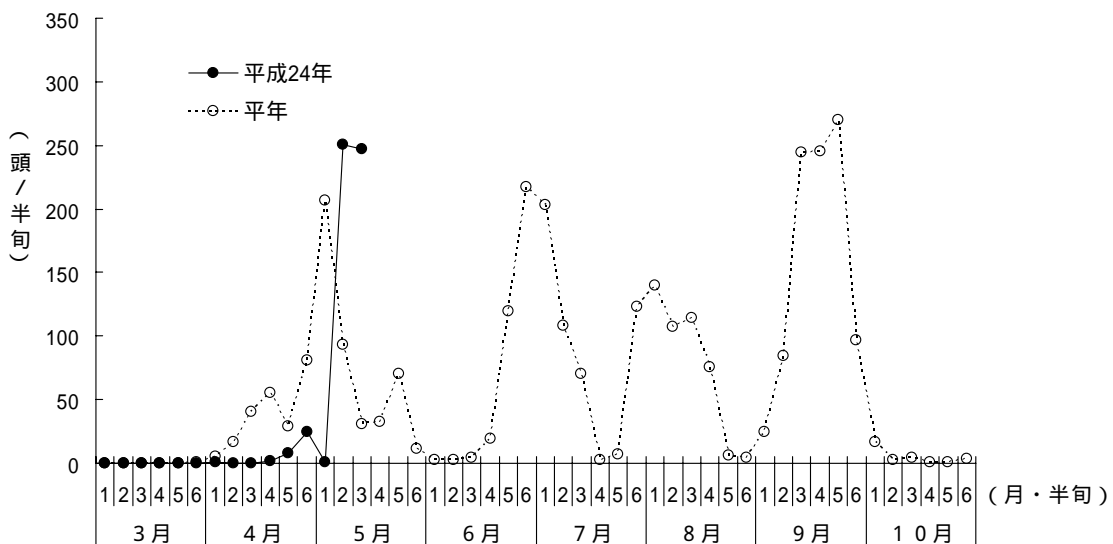


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

3. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は0.0枚(0.0枚)、発生圃場率は0.0%(7.4%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は4月4半旬にピークが見られ、平年並で推移している(図)。

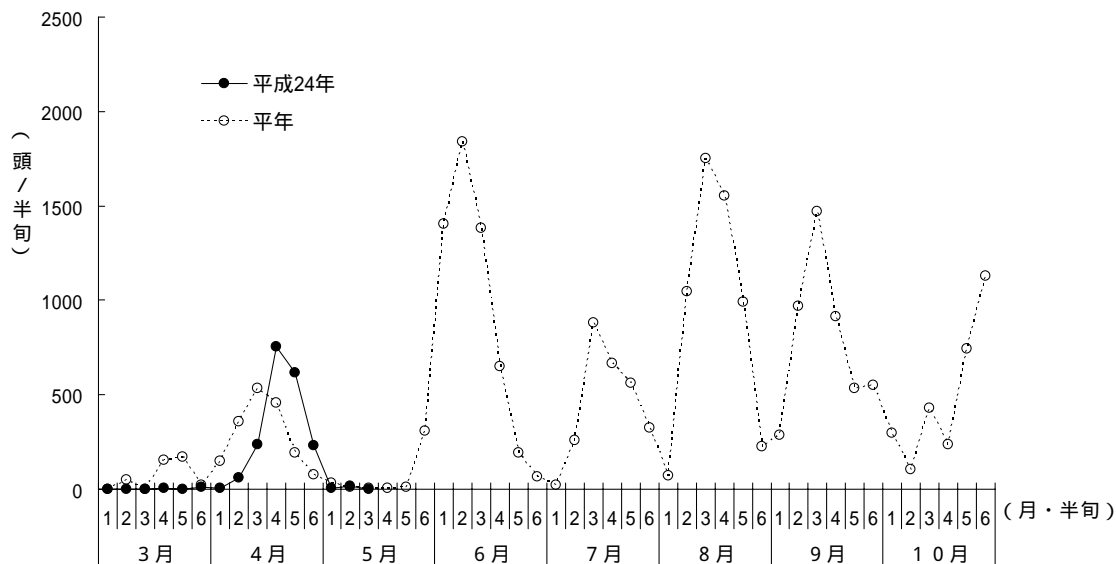


図 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

4. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は3.5頭(1.0頭)、発生圃場率は55.0%(29.7%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は12.1頭(8.3頭)、発生圃場率は70.0%(51.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

6. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は8.0%(4.9%)、発生圃場率は40.0%(37.7%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

株内の枝に薬液がかかるように散布する。

7. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は7.0%(0.6%)、発生圃場率は55.0%(15.0%)で、一部多発圃場が見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

葉裏にも十分薬液がかかるよう散布する。

【参考】
気象

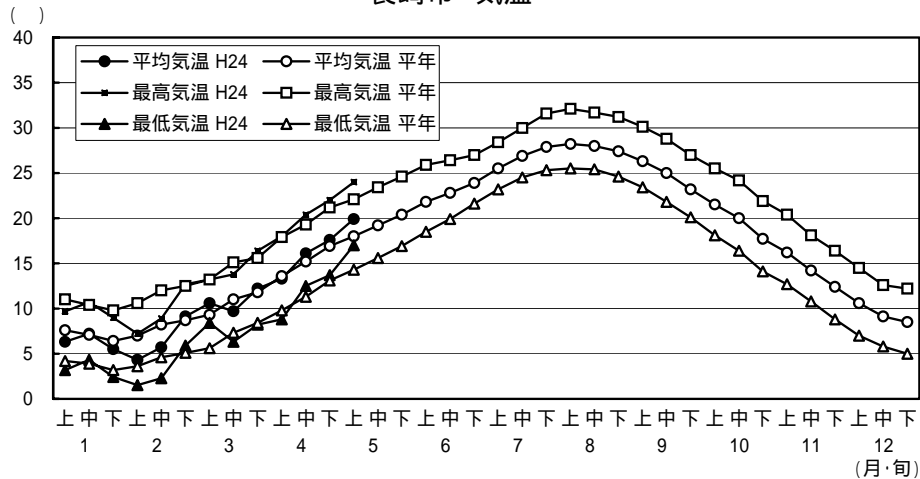
(平成24年5月11日発表 1か月予報 福岡管区気象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

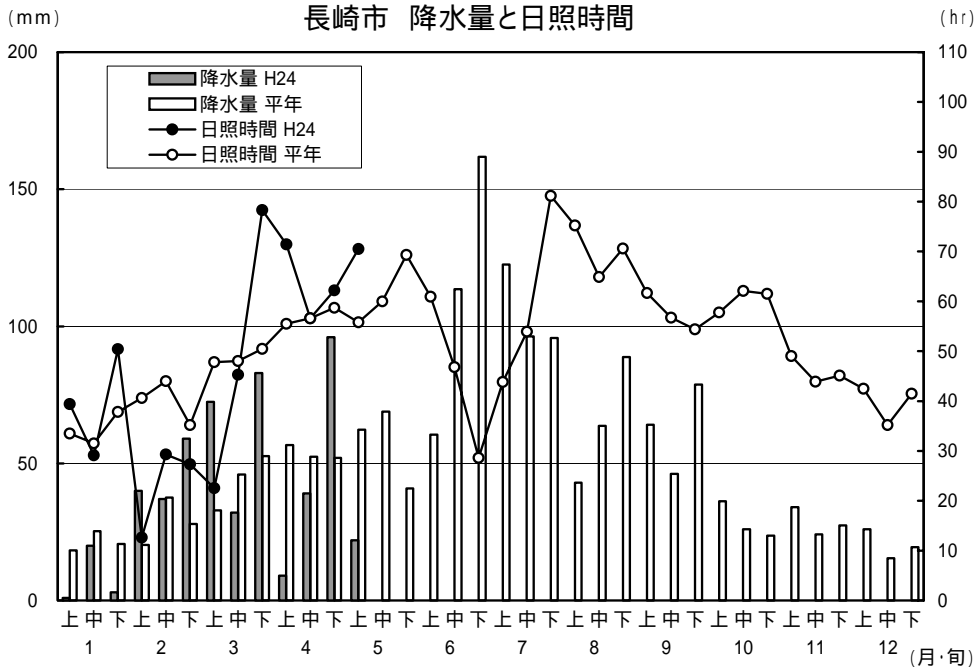
予報対象地域：九州北部地域

平成24年の気象経過 (長崎海洋気象台)

長崎市 気温



長崎市 降水量と日照時間



病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027